

令和2・3年度 国立教育政策研究所

教育課程研究指定校事業 高等学校教科「水産」(2年目)

発表補助資料

令和 4 年 2 月 3 日

熊本県立天草拓心高等学校マリン校舎

1

本校概要

天草拓心高等学校 (平成27年開校)
(旧芥明高校(農業)・旧芥洋高校(水産)・河浦高校(農業))

マリン校舎

- ①普通科総合コース
 - 普通科類型
 - 情報ビジネス類型
- ②海洋科学科
 - 海洋航海コース
 - 栽培・食品コース
(栽培系, 食品系)



本渡校舎

- ③普通科
- ④商業科
- ⑤生物生産科
- ⑥食品科学科
- ⑦生活科学科

2 令和3年度職員構成：水産学科（海洋科学科）

海洋航海コース

教諭4（乗船指導1を含む），実習教師2（乗船指導1，臨採1を含む）

栽培・食品コース

栽培系：教諭2，実習教師1（臨採1を含む）

食品系：教諭3（再任用1を含む），非常勤1，実習教師2（臨採1を含む）

計15名（調査研究員14名（非常勤1を除く））

調査研究員14名のうち，研究主任1名，基礎科目担当1名，各分野担当3名，他3名，計8名で，水産科目の学習指導及び研究を担当した。

3 多様な『資質・能力』から5項目を選択

(1) 基礎的素養に関するもの：

自己制御力、積極性、責任感、主体性、チャレンジ精神、創造力、
実行力、自己肯定感、自己分析能力（自己評価）、勤労観、貢献心など

(2) 業務遂行に関するもの：

課題発見力、習得力、状況判断力、計画力、ストレス耐性、専門性、
批判的思考力、プレゼンテーション能力など

(3) 対人関係に関するもの：

傾聴力、柔軟性、協調性、コミュニケーション能力、思いやり、対人
関係力、他者理解など

4 研究に取組んでからの疑問・不明点

- ①単元毎の評価をしていくと、定期考查（慣習）を実施する必要はないのではないか。
- ②各観点で、ABC評価を行い評価していくのであれば、各科目での素点・評点の記録（教務部の帳簿保存）の必要性はないのではないか。
- ③教務規定・内規の見直しをどの程度行うか。

スライド4に関して得られた情報

〔1〕熊本大学大学院 教育学研究科 教授 田口浩継 先生 主催学習会
技術科サークル〔TIS〕より

県内中学校の状況

- ・ 考査・小テスト等の「素点」は、根拠資料として、原則1年もしくは3年間（在籍生徒卒業時まで）保管しておく。
- ・ 学習成績は、学期末毎の通知票にて、生徒及び保護者に最終確認を行う。
- ・ 年度末の評価は、観点別（3観点のABC）評価及び5段階評価のみを行う。

〔2〕高等学校「情報科」セミナーでの質疑応答内容より

『情報Iにおける「評価規準の作成」及び「評価の実施』』

2022年10月9日（土）講師：京都精華大学メディア表現学部 教授 鹿野 利春 先生
(前国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官)

- ・定期考査は慣習的なものであり、実施の必要性はなく、判断は学校裁量である。
- ・3観点のABC評価は、あくまでも3段階の荒いもので、誤差が出やすい。その評価から5段階の評定に変換するためには、数多くの評価データを集めた方がより正確に評価できる。

令和3年12月14日実施

令和3年度(2021年度)国立教育政策研究所教育課程
研究指定校事業に係わる研究協議会

指導助言・講評

国立大学法人熊本大学 教育学研究科

副学部長 教授 田口 浩継 様からのスライド資料より

資質・能力を備えた生徒の育成のための指導と評価

- ・計画的に多方面に渡った研究（実践・分析）
- ・地に足のついた誠実な研究を推進
- ・体系的・系統的：各教科の内容と実施時期の摺合せ
※カリ・マネは、教師間の連携から生まれ、深まる
「系統観」を教師が把握することは、適切な指導に
- ・地域と連携した探究活動の提供は有効
学びの真正性、苦手とするプレゼンの力の育成
地域・企業とのWin・Winの構築が継続性を高める
- ・実践的・体験的な活動：目指す生徒像の実現
○○を学ぶから、○○で学ぶ：社会人基礎力の育成

「社会人基礎力」の3つの能力・12の要素（経産省・H18）

1. 前に踏み出す力 (アクション)	①主体性	物事に進んで取り組む力	実践力 (自立・参画力)
	②働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力	
	③実行力	目的を設定し確実に行動する力	
2. 考え抜く力 (シンキング)	④課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力	思考力
	⑤計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	
	⑥創造力	新しい価値を生み出す力	
3. チームで働く力 (チームワーク)	⑦発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力	実践力 (人間関係形成力)
	⑧傾聴力	相手の意見を丁寧に聞く力	
	⑨柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力	
	⑩情況把握力	自分と周囲の人々と物事との関係性を理解する力	
	⑪規律性	社会のルールや人との約束を守る力	
	⑫ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力	

職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力

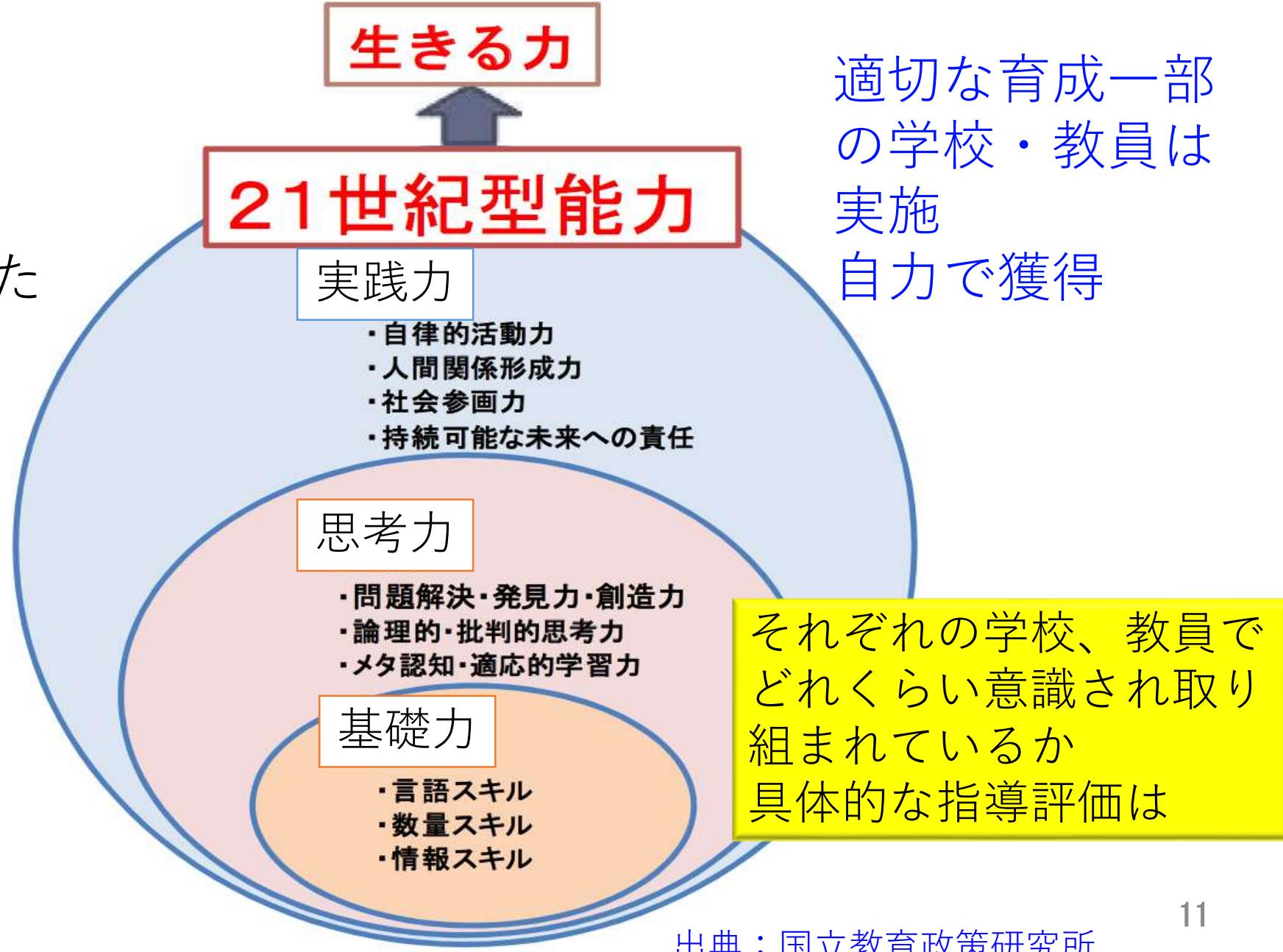
先生方が担当された生徒さんで、 こんな方はいらっしゃいませんか？

- ・在学時は文武両道・学力優秀で、社会に出てからも力を発揮し活躍している。
- ・在学時は学力優秀だったけど、社会に出てからは自分の思い通りの人生を歩めていない。
- ・在学時は学力優秀だったけど、就職してからは活躍していない（大事にされていない）。
- ・在学時は学力はそうでもなかったけど、社会に出てからは自分の思い通りの人生を歩んでいる。
- ・在学時は学力はそうでもなかったけど、就職してからは活躍している（大事にされている）。

学期・学年の評価は定期試験7割、平常点3割で良いか

- ・従来の評価と現実との乖離
- ・見落としていたものはないか

コンピテンシー企業などで人材の活用に用いられる手法で、**高業績者**の**行動特性**。



学力観・評価観の転換：

評定や選別のための評価でなく目指す生徒像の実現

〈評価〉

※デジタル大辞泉より

- 1 品物の価格を決めること。また、その価格。
 - 2 事物や人物の、善悪・美醜などの**価値を判断**して決めること。**(学期末・年度末の評定)**
 - 3 ある事物や人物について、**その意義・価値を認めること**。**(指導と評価の一体化・形成的評定)**
- 評価を踏みに使うか、**応援・支持**に使うか。
 - 私たちは、評価活動によって**生徒との関わり方**を伝えている。
 - 学校の**目指す生徒像**の具現（どんな生徒を育成か）

評価法の分類 (梶田参照)

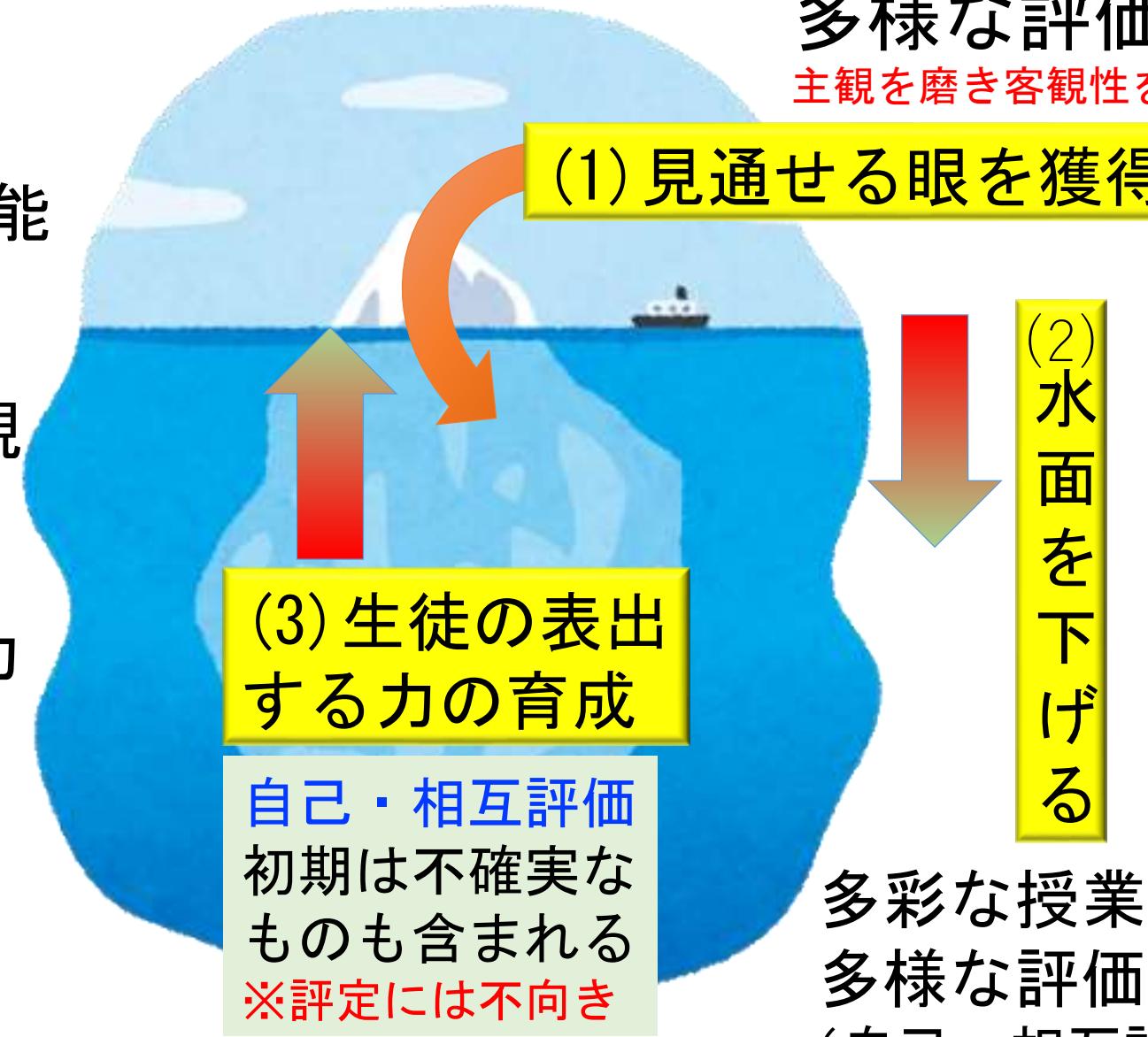
	診断的評価	形成的評価	総括的評価
時期	指導前	指導中	指導後
目的	指導計画の立案と修正 生徒の実態把握	指導の調整	指導計画・指導法の改善 成績（評定）の決定
診断方法	前提・事前テスト	形成的テスト (単元テスト)	事後テスト (定期テスト)
解釈	絶対評価	絶対評価	相対評価 絶対評価

- ・診断的評価：実際の学習に先立って生徒の現状等を診断し、最適の指導方法を準備するための評価
- ・形成的評価：学習過程の中で生徒の到達状況やつまずきの状況等を把握し、授業を改善するための評価
- ・総括的評価：学期・学年末に学習の成果を確認するための評価

図 1 生徒の資質・能力の評価

観察力・洞察力
多様な評価技術
主觀を磨き客觀性を高める

- ①知識及び技能
- ②思考・判断・表現
- ③学びに向かう力
人間性等



多彩な授業形態
多様な評価方法
(自己・相互評価)

(1) 見通せる目の獲得（多様な評価技術）

- ・粘り強さと学習調整：WSの自由記述からの読み取り
- ・ルーブリックの活用：評価基準・基準、評価計画の作成
- ・素点の収集・分析から最終評価の決定方法
- ・エクセルの活用：標準値・観点別の重み付けの調整

(2) 水面を下げる取組（多様な評価方法）

- ・実習日誌の自由記述：粘り強さと学習調整
- ・WS：どのような姿勢で立ち向かうか：粘りと学習調整
- ・定期考查に「POP広告」「アイディアマップ」の導入
- ・個人評価や発表（理科）の導入、地域での探究活動

(3) 生徒の表出する力の育成（メタ認知とアピール力）

- ・実習の記録の作成と添削、教員との個人面接
- ・自分を知るチェックリスト：ゴールの明示・メタ認知育成
- ・開発商品の売り込み（どんな思いを始めたかの表出）

表 各評価側面に適した評価方法 (梶田参考)

	知識	技能・表現	思考力・判断力	興味・関心	態度
ペーパーテスト	◎		○		○
問答法	◎		◎	◎	○
観察記録法	○	◎	○	◎	○
ポートフォリオ	○	○	◎	○	◎
作成物法		○		◎	○
自己・相互評価法			○	○	○

◎ : その評価側面にふさわしい評価方法

○ : 評価可能な評価方法

※観察記録法には、限界がある。紙媒体の補助的に活用。

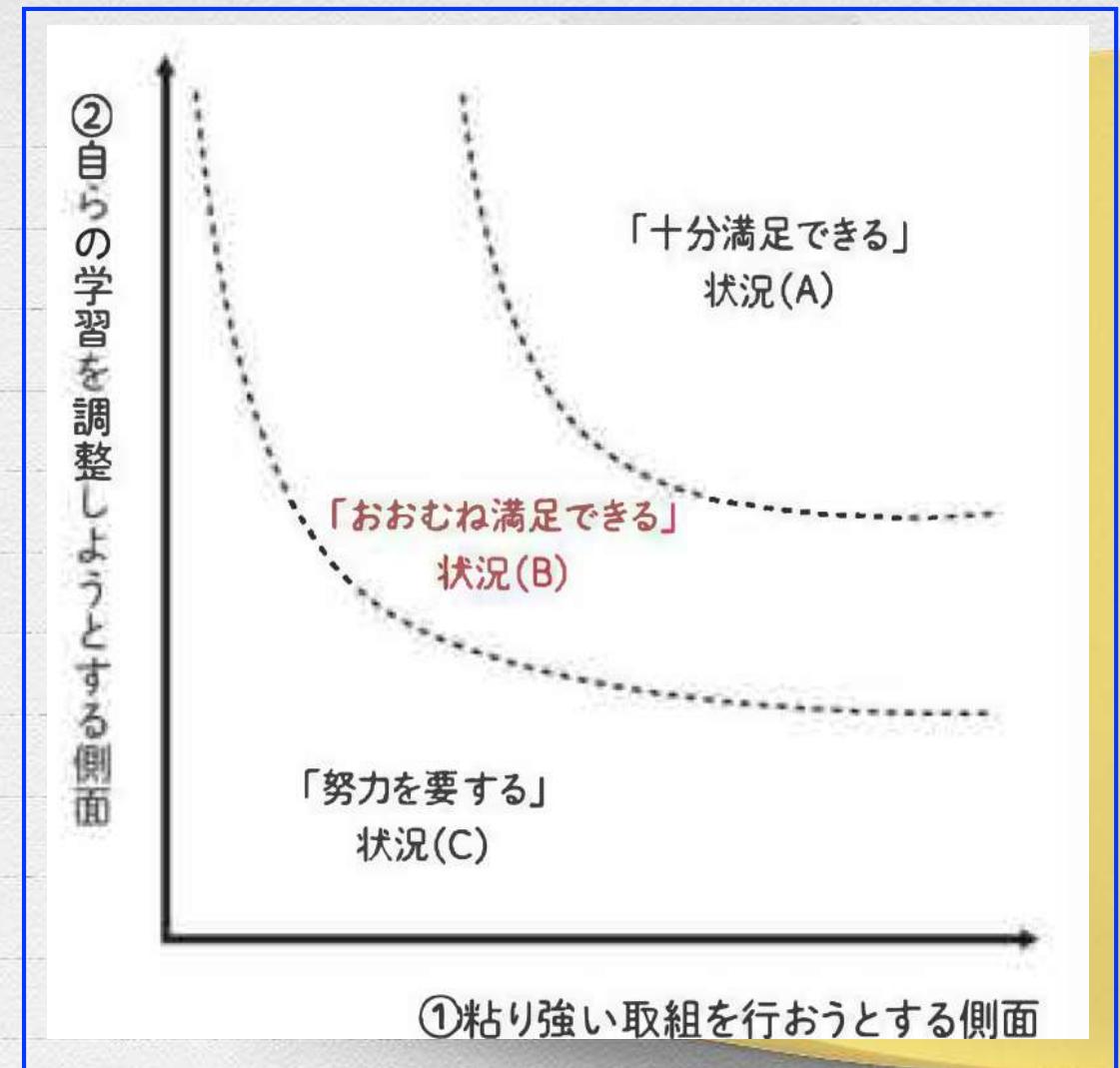
「主体的に学習に取り組む態度」の評価

①知識・技能や、思考力、判断力、表現力等の獲得に向けた**粘り強い取組**を行うとする側面

②粘り強い取組を行う中で、自らの**学習を調整**しようとする側面（学習の成果につなげているか）

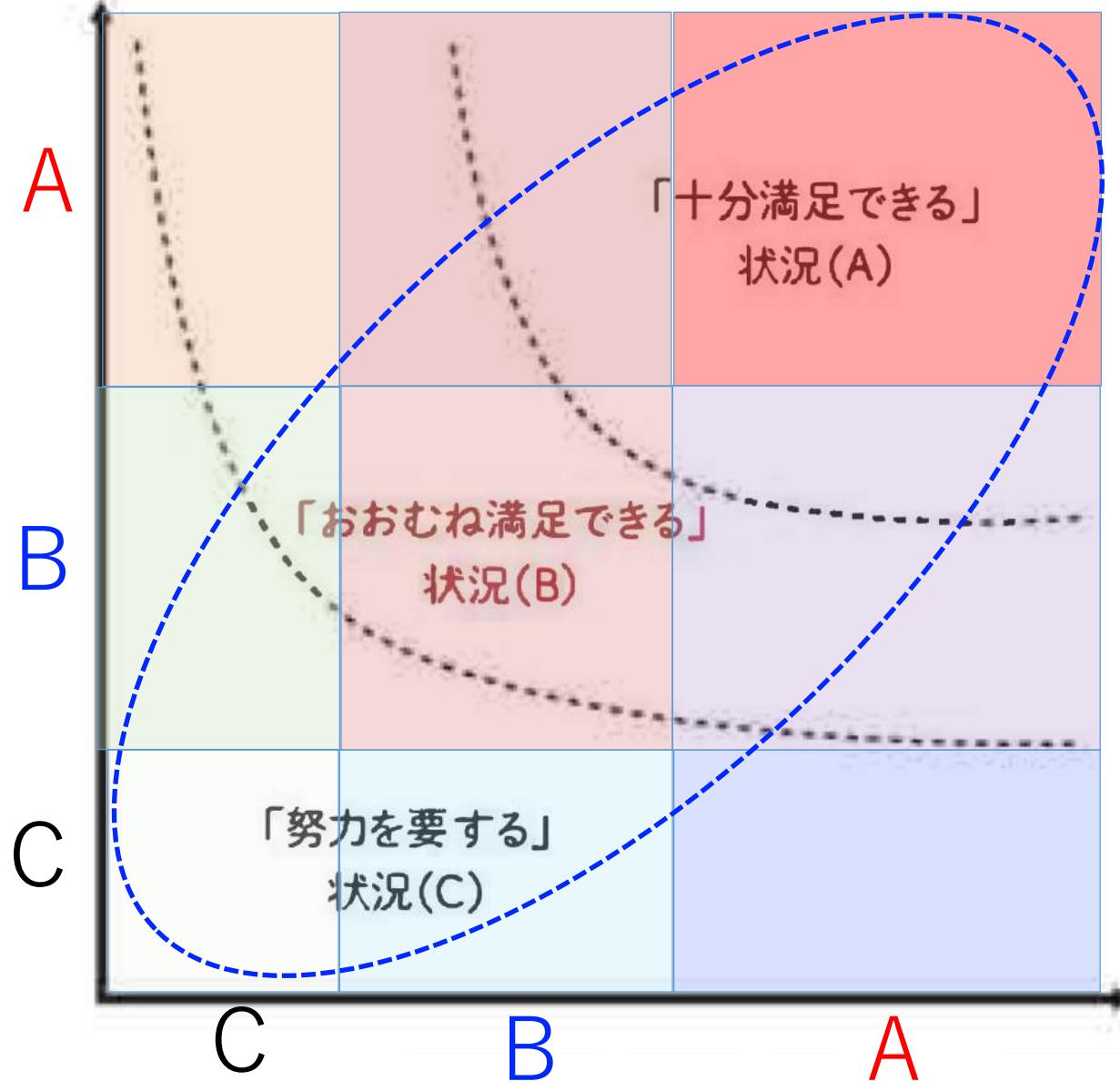
自らの学習を全く調整しようとせず、粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で、自らの学習を調整する姿は一般的でない。

→ 2つは一体となり出現



出典：文部科学省、学習評価の在り方ハンドブック

②自らの学習を調整しようととする側面



①粘り強い取り組みを行おうとする側面

例 :

$$A \& A = A$$

$$A \& B^+ =$$

$$B^+ \& A =$$

例 :

$$B \& B = B$$

$$A^- \& B = B$$

$$B \& A^- =$$

例 :

$$C \& C = C$$

$$C \& B = C$$

$$B \& C = C$$

2. 評定（学期・年度末）

各教科の目標に照らして、その実現状況を5段階で記入

A○：5点、A：4点、B：3点、C○：2点、C：1点

組み合わせの代表例（合計値）	評定と基準
A○ A○ A○ (15) A○ A○ A (14)	5 (15点～14点) 十分満足できると判断されるもののうち、特に程度の高いもの
A○ A○ B (13) A A A (12) A○ B B (11)	4 (13点～11点) 十分満足できると判断されるもの
A B B (10) B B B (9) B B C○ (8)	3 (10点～8点) おおむね満足できると判断されるもの
B C○ C○ (7) C○ C○ C○ (6) C○ C○ C (5)	2 (7点～5点) 努力を要すると判断されるもの
C○ C C (4) C C C (3)	1 (4点～3点) 一層努力を要すると判断されるもの

重み付けの是非：3観点で軽重、学年ごとに変更、1学期と3学期、備考で加算

出典：神奈川県教育委員会（中学校の例）

研究の微調整

- 3観点の重み付けの検討
A : 40% , B : 40% , C : 20%は適切か。目指す生徒像
- 3観点の評価のスパンの検討
知・技は単元ごと、思考や意欲は複数単元で
- 評価のタイミング：技能は評価シート等に記録し、最終的に評価。
最終的にどうであったかが重要
- 技能取得・改善は、事後の自己申告も受け付ける
- 定期テストの見直し：単元テストや何度もチャレンジできる
テストの導入（教師負担は増加）
- ルーブリック：思考・判断は、結果としての評価。学びに向かう
力は、「〇〇しようとしている。」

(2) -15 (1) 数学科の評価（データ処理）の事例

	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W
1																					
2		総合点			平均			観点別評価													
3	番号	氏名	知	思	主	知	思	主	知	思	主	評点	評定								
4	1		36	18	32	9.0	9.0	8.0	A	A	A	96.30	5								
5	2		12	6	20	3.0	3.0	5.0	C	C	B	40.74	2								
6	3		32	18	32	8.0	9.0	8.0	A	A	A	92.59	5								
7	4		36	18	32	9.0	9.0	8.0	A	A	A	96.30	5								
8	5		16	10	24	4.0	5.0	6.0	B	B	B	55.56	3								
9	6		24	10	28	6.0	5.0	7.0	B	B	A	66.67	4								
10	7		36	18	24	9.0	9.0	6.0	A	A	B	88.89	5								
11	8		8	10	16	2.0	5.0	4.0	C	B	B	40.74	2								
12	9		20	2	16	5.0	1.0	4.0	D	C	B	37.64	2								
13	10		8	2	20	2.0	1.0	5.0	C	C	B	29.63	1								
14	11		8	6	16	2.0	3.0	4.0	C	C	B	33.33	2								

- ・3観点はある程度一体的に変化する（連動する）
- ・しかし、学びに向かう力・人間性は、最初に出現するものと、最後に出現するものの2種類
(○○しようとしている⇒学習観・人生観)

理解度の評価（形成的評価）

（2）-14 他教科との協議（数学科・理科）

（ア）評価のタイミングについて **定着度の評価（総括的評価）**

技術・技能について、その授業の中で評価できるものもあれば、一度演習を行いはかるべきものもある。

それぞれの時間内で評価することは負担感も大きく、教授した授業内で評価することは信頼性が低くなる可能性もある。その場合は、評価シート等で記録として残し、後で行う方が良い。

（イ）具体的な評価について

記録を取る評価を多くとった方が良い。必要な評価項目をループリックにし、ある一定範囲（小単元や定期考査）の中で評価することがデータの信頼性が高くなると考えられる。

(2)-5 ルーブリックを用いた評価（実習科目）

評価規準		評価基準			
評価規準	評価基準	0 相当の努力が必要	1 努力が必要	2 一部到達できている	3 十分到達できている
		C	C'	B	A
知識・技術	知識と技術の定着	知識や技術が全く理解出来ていない。	これまでの学びと技術を生かしていない。	これまでの学びと技術を生かし、取り組んでいる。	これまでの学びと技術を応用することで深い学びに取り組んでいる。
思考・判断・表現	知識や技術の活用と工夫、探究	課題意識がなく、決められた問題でしかその対応が出来ない。	課題に気づいていても解決方法等が生かせていない。	知識や技術を生かし、課題の解決を図ろうとしている。	汎用的な資質や能力で取り組み、課題の解決を図ろうとしている。
主体的に学習に取り組む態度	実験実習への取組	他者任せの態度で、目標も理解しようとせず、取り組もうとしない。	目標はある程度理解しているものの、進んで取り組んでいない。	実施すべき目標を理解し、自ら進んで取り組んでいる。	工夫を加え、積極的に取り組んでいる。
	周囲との協力	他者任せで、周囲との協力が全く出来ていない。	意思はみられるものの、周囲と協力ができていない。	他者を尊重し、周囲と協力しながら取り組んでいる。	リーダーシップを発揮し、周囲と協力し取り組んでいる。

育成を目指す資質・能力と評価の観点

- 学習評価は、児童生徒の学習状況を検証し、
教育水準の維持向上を保障する機能。
 - 各教科では、学習指導要領の目標に照らした
観点の「目標に準拠した評価」として実施。
- きめ細かい学習指導の充実と児童生徒一人一人の学習内容の確実な定着を目指す。

旧

評価の観点	知識・理解	技能	思考・判断・表現	関心・意欲・態度
-------	-------	----	----------	----------

改訂



資質・能力	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
II	II	II	

観点（例）	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各観点の趣旨のイメージ（例）	（例） ○○を理解している/○○の知識を身に付けている ○○をすることができる /○○の技能を身に付けている	（例） 各教科等の特質に応じ育まれる見方や考え方を用いて探究することを通じて、考えたり判断したり表現したりしている	（例） 主体的に知識・技能を身に付けたり、思考・判断・表現をしようとしたりしている ・できていなくてもよい ・できる前の状態で見る

※具体的な観点の書きぶりは、各教科等の特質を踏まえて検討

今後の展開

- 研究指定校の役割を果たす。多種多様なチャレンジがあって、最終的なゴールも見える
- 何を残すか。改善するか。（数年後に残ったものが成果）
→ 簡略化・日常的に定着するレベル・事項の提案
- 生徒がどう変化したか。教員との関係性の変化も（教授者・評価者から支援者へ）
- 地域連携による多様な活動の充実と成果（生徒・地域に支持される学校）
- 個別最適化に寄与するICT活用。評価への活用
- 生徒が自己効力感を高め、何事にもチャレンジ